

はじめに

平成 19 年 9 月 6 日（木）から 7 日（金）にかけて、広島市南区民文化センターで第 16 回地域がん登録全国協議会総会研究会ならびに実務者研修会を開催いたしました。平成 19 年(2007 年)は昭和 32 年(1957 年)に広島市医師会腫瘍統計事業が開始されてから、ちょうど 50 周年に当たる年でした。この記念すべき年に総会研究会を開催できましたことを誠に光栄に存じます。

総会研究会は「保健・医療と疫学研究における地域がん登録の役割」をテーマとし、大きくシンポジウム、会長講演、市民公開講座で構成しました。「地域がん登録の課題と今後の展望」をテーマとしたシンポジウムでは、祖父江友孝国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部長と迫井正深広島県福祉保健部長に座長をお務めいただき、味木和喜子先生（国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部）から「地域がん登録の標準化の現状と課題」について、有田健一先生（広島県地域がん登録運営部会・広島県医師会）から「地域がん登録に果たす医師会の役割」について、田中英夫先生（大阪府立成人病センター、現・愛知県がんセンター）から「地域がん登録の法的現状と課題」について、井岡亜希子先生（大阪府立成人病センター）から「がん対策推進計画策定における府県がん登録の役割」について、それぞれご講演をいただきました。

会長講演では、次回の会長を務められる関根一郎長崎大学大学院医歯薬学総合研究科原研病理教授に座長の労をお取りいただき、「放射線影響研究における地域がん登録の貢献」をテーマに、地域がん登録なしには成し遂げられなかった放射線影響研究所の研究について、結果の概要を紹介させていただきました。

昨年の山形に引き続いて開催した市民公開講座は、「50 周年を迎えた広島のがん登録—広島の保健・医療に不可欠ながん登録について考える—」をテーマに行いました。座長を岡本直幸地域がん登録全国協議会理事長（神奈川県立がんセンター）と鎌田七男広島県地域がん登録運営部会長（原爆被爆者援護事業団）にお願いし、西 信雄先生（放射線影響研究所広島研究所疫学部）から「広島におけるがん登録の取り組みと成果」について、桑原正雄先生（広島市医師会腫瘍統計委員会・広島市医師会）から「広島市医師会とがん登録—その 50 年の歩みと保健・医療への貢献」について、安井 弥先生（広島県腫瘍登録実務委員会・広島大学大学院医歯薬学総合研究科分子病理学）から「がん登録資料はどのように活用されるのか—広島県でがんはふえているか?」というタイトルで、片山博昭先生（放射線影響研究所情報技術部）から「がん登録では個人情報はこのように守られている」というタイトルで、それぞれご講演いただきました。またこの 4 人の演者の後に、中国新聞社の山内雅弥論説委員から、市民の立場からの追加発言をいただきました。最後に総合討論の時間が設けられましたが、自らもがん患者である市民から地域がん登録は身近なものとは感じられないとの発言があり、地域がん登録そのものの啓発活動や、市

民への成果の還元にもっと力をいれる必要があることを痛感させられました。

今回の総会研究会は、出張採録、組織登録、届出と多様な方法が共存する広島のがん登録を紹介するため、地元の関係者に多くご登壇いただきました。がん登録への医師会の積極的な関与など広島のユニークさをご紹介することで、少しでも今後の日本の地域がん登録の発展にお役に立つことができたとすれば、総会研究会をお世話させていただいた者として誠に幸いです。座長をお務めいただいた先生がた、ご講演いただいた先生がたに、あらためてお礼申し上げます。

(児玉 和紀)